

■経済学研究科 博士後期課程

【教育課程・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下「1. 教育課程編成の考え方」に基づき、「2. 学修内容及び学修方法」、「3. 学修成果の到達目標」、「4. 学修成果の評価方法」により教育課程を実施します。

1. 教育課程編成の考え方

- (1) 専門分野に関連する科目の履修を必修とすることで最先端の高度な専門的知識と分析技術を学ぶ機会を提供します。
- (2) 「博士論文指導委員会」を設立することで指導教員を含めた複数人の集団指導により博士論文の執筆に取り組むようにします。また、「博士学位論文計画書」を提出することで論文執筆の進捗を確認します。
- (3) 海外研究者の招聘を含めた「ワークショップ」を開講し、専門分野に関連する最先端の研究知識を得るとともに、自らの研究結果を報告する機会を提供します。

なお、学生が各自の目標に向かって適切な履修計画を立てることができるように、履修モデル及び全ての授業科目の概要、到達目標、内容及び評価方法を明記したシラバスを示します。また、授業の事前及び事後の学修指示や参考文献を示すなど、学生の主体的な学修を支援します。博士論文の執筆にあたっては指導教員を含めた複数の教員による「博士論文指導委員会」を設立し集団指導の下で明確な方針を提示したうえで「博士学位論文計画書」を作成します。各学生はこの計画書に従って博士論文を執筆することになります。さらに、研究活動上の不正行為を防止するため、全学生を対象として研究倫理教育を実施します。

2. 学修内容及び学修方法

第一に、それぞれの専門分野に関連する科目を履修することで、博士論文の執筆に必要な最先端の高度な専門的知識と分析技術を修得します。

第二に、「ワークショップ」を履修し研究報告することで、専門分野に関連する最先端の研究知識を得るとともに、自らの研究成果を効果的に発信する能力を修得します。

第三に、「演習」をはじめとするゼミナールにおいて指導教員や専門分野に近い教員の集団指導を受けることで、学術的に経済学に大きく貢献する、あるいは先端的な経済学の知見を用いて現実社会の諸課題の解明と解決に資する重要な研究を行う能力を養成し、博士論文を執筆します。

3. 学修成果の到達目標

本研究科博士後期課程での学修を通じ、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質等を修得し、学術的研究、公共政策、ビジネスなどの現場で高い専門性を発揮し活躍できるようになることを到達目標とします。

4. 学修成果の評価方法

各講義科目の学修成果は、科目の特性等に応じて定期試験、レポート、小テストや発表を含む平常点などの方法で評価することとし、具体的な評価の方法はシラバスにおいて科目ごとに明示します。

博士論文の審査は、学術的に経済学に大きく貢献する、あるいは先端的な経済学の知見を用いて現実社会の諸課題の解明と解決に資する重要な研究成果が得られているかという観点から、2名の推薦者を含めた合計5名の審査委員によって行われます。審査論文に関する口述試問を実施し、そこで問題点が指摘された場合には論文を修正のうえで最終試験を行い、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力・資質等を修得しているか評価します。